

矢吹慶輝 やぶき 宗教學・社會事業學者、文學博士。明治十二年一月十二日福島縣生れ、昭和十四年六月十日歿（二七九—一九三六）。舊名佐藤淺治、佐藤慶輝。號懷溪。矢吹良慶の養嗣子。第一高等學校を経て、明治四十二年東京帝國大學文科大學卒。大正二年より歐米留學、傍ら社會事業視察。歸朝後十一年（西域發掘品調査を兼ね社會事情視察のため）再度歐洲巡歴。十二年労働者の思想問題に著き、皇太子（昭和天皇）の進講。翌年東京市社会會司長。大正大學教授の他、東京帝大、東洋大學、法政大學等にも出講。『三階教之研究』（昭和二年六月五日岩波書店）（この）帝國學士院思想研究（受）。

他に、『三階教』（昭和二年十月矢吹文子序、無刊誌）英國博
物館藏 熾煌、熾煌出土手冊、古逸佛典開寶『寫沙餘韻—附解説』（昭和五年十月—二十五年務所）、『新白木の思想問題』（昭和七年二月十日千葉・新京白石波書店）、『新白木の思想問題』（昭和七年七月十日岩波書店）、『熾煌出土古寫佛典の跋』（昭和七年七月十日岩波書店）、『寫沙餘韻解説』（昭和八年四月十日岩波書店）、『思想の動向と佛敎』（昭和八年九月—二十九年大雄閣）、『本貫老尼』（昭和十年四月—二十五年福奈川・慈敎庵）、『現代人と佛敎』（昭和十一年二月—二十五年）、『三階堂』、『善正海敎義叢書』（）、『學校敎育と宗教』（昭和十二年一月—十五年）、『社會敎育協會』、『敎育のメロデー』（）、『思想と生活』（昭和十五年一月—二十年）、『明治書院』、『懷溪叢書』（）、『病間雜記』（昭和十五年）、『矢吹輝夫論刊』（）、『社會思想の信念』（昭和十五年十月五日明治書院）、『懷溪叢書』（）、『法然上人』（）、『矢吹輝夫編、



昭和十六年六月十日矢吹法律事務所（等）追悼集「豊輝道入」（昭和十六年六月十日矢吹輝夫編刊）がある。